

リハビリテーション科

1. 目的と特徴

リハビリテーション科は、脳神経、運動器、心臓や呼吸器など内部疾患などによる障害に対して、医学的に診断・治療を行う診療科である。リハビリテーション科医は、障害の診断、機能評価、予後予測を行い、適切なリハビリテーションプログラムを作成し、機能障害、活動制限、参加制約などの回復を促し、日常生活の自立や社会復帰を提供することを業務とする。当科のプログラムの目的は、リハビリテーション医学全般の知識と医療技術を習得して、日本リハビリテーション医学会のリハビリテーション科専門医を取得すること、リハビリテーションのチームリーダーとして指示・指導できる能力を獲得することである。

特徴は、リハビリテーション栄養や臨床栄養を同時に学ぶことができる点である。嚥下リハ栄養チームや栄養サポートチームに参加することで、リハビリテーションを行っている患者に適切な栄養管理をできる能力を獲得することである。日本栄養治療学会認定医や日本リハビリテーション栄養学会リハ栄養指導士の取得を目指すことも可能である。

2. 指導スタッフ

教授・基幹分野長	若林秀隆	助教	中空真二郎
助教	水野聡子		

3. 研修施設

基幹病院：東京女子医科大学病院リハビリテーション科

研修協力施設：東京女子医科大学足立医療センターリハビリテーション科、新東京病院リハビリテーション科、牧田リハビリテーション病院リハビリテーション科、ねりま健育会病院リハビリテーション科、五反田リハビリテーション病院リハビリテーション科、中野共立病院リハビリテーション科、横浜市総合リハビリテーションセンターリハビリテーション科、坂総合病院リハビリテーション科、長町病院リハビリテーション科、埼玉協同病院リハビリテーション科、新百合ヶ丘総合病院リハビリテーション科、茨城リハビリテーション病院リハビリテーション科

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

入院・外来患者のリハビリテーション診療を自立して行えるようになる。

リハビリテーション科医として必要不可欠な専門的知識・技術を習得する。

リハビリテーションチームのリーダーとして臨床業務に従事できるようになる。

B：行動目標

1) リハビリテーションのメディカルスタッフとの密接なコミュニケーションをとることができる。

2) リハビリテーション科医としての基本的な診察法(神経学的所見、運動器所見など)とリハビリテーション評価法を習得する。

3) リハビリテーション科医としての必要な検査(嚥下造影検査など)を行うことができる。

4) リハビリテーション科医として必要な放射線学的検査(単純レントゲン、CT、MRI)を読影することができる。

5) リハビリテーション科入院患者の主治医として医学的管理、栄養管理、リハビリテーション栄養ができるようになる。

6) 他科、他職種とのリハビリテーションカンファレンスに参加する。

7) 義肢・装具、歩行補助具、車いすなどに関する知識を習得する。

8) リハビリテーションに関連する社会制度(障害者自立支援法、介護保険法など)の知識を学ぶ。

- 9) リハビリテーション治療計画の立案、リハビリテーション処方、装具処方ができるようになる。
- 10) リハビリテーション診療のチームリーダーとしての能力を身につける。
- 11) 日本リハビリテーション医学会学術集会・地方会で発表する。
- 12) リハビリテーション医学に貢献できる研究を計画し開始する。
- 13) リハビリテーション医学会専門医資格を取得する
- 14) 後輩の後期臨床研修医、初期臨床研修医を指導できるようになる。

経験すべき疾患

脳神経疾患(脳卒中、脳外傷、脳腫瘍など)、脊髄疾患(脊髄損傷、脊髄炎など)、神経筋疾患(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、末梢神経障害など)、骨関節疾患(関節リウマチ、変形性関節症、骨折など)、小児疾患(脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎など)、循環器疾患(心筋梗塞、心不全など)、呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患、周術期呼吸障害など)、サルコペニア・フレイル、その他の疾患(悪性腫瘍、熱傷、嚥下障害、廃用症候群など)

C：年次別研修スケジュールと研修内容概略

(以下は基本的なスケジュールであり変更となることがあります)

研修1年次(大学病院)

リハビリテーションの診察、評価、検査、処方の習得、カンファレンスへの参加、学会発表、論文執筆

研修2年次(大学病院または関連病院)

リハビリテーション科入院患者の診療(主治医として)、外来診療、カンファレンスへの参加、学会発表、論文執筆、後輩の指導

研修3年次(大学病院または関連病院)

リハビリテーション科入院患者の診療(主治医として)、外来診療、カンファレンスへの参加、学会発表、論文執筆、後輩の指導、専門医試験の準備

研修4年次(大学病院または関連病院)

リハビリテーションの診察、外来診療、カンファレンスへの参加、学会発表、論文執筆、後輩の指導、専門医試験の受験

研修5年次(大学病院または関連病院)

リハビリテーションの診察、外来診療、カンファレンスへの参加、学会発表、論文執筆、後輩の指導

D：週間予定(大学病院)

	業 務	会議等
月	リハビリ業務(入院・外来患者) 嚥下回診(昼) 装具外来(午後)	全体会議(第1) オンライン医局会(第3) 運営委員会(第4)
火	リハビリ業務(入院・外来患者) 嚥下リハ栄養回診(昼)	
水	リハビリ業務(入院・外来患者) 装具外来(午後)	症例検討会(第1、第3) 嚥下カンファレンス(第2、第4) リサーチミーティング English Seminar 栄養サポートチームに参加
木	リハビリ業務(入院・外来患者)	栄養サポートチームに参加
金	リハビリ業務(入院・外来患者) 装具外来(午前)	
土	リハビリ業務(入院患者)	

E：評価

大学病院および関連病院の指導医から逐次報告を受け、勤務態度、メディカルスタッフなどとの協調性、学会発表、論文執筆などを総合的に判断して評価を行う。

5. 後期臨床研修修了後の進路

後期臨床研修修了後に、東京女子医科大学リハビリテーション科の助手もしくは助教、関連病院などへの就職希望に対応する。

6. 学位

研究論文が掲載された後、医学博士の申請、取得が可能である。リハビリテーション科学講座の大学院進学も可能である、

7. 専門医

研修期間中に日本リハビリテーション医学会専門医を取得する。

8. 問い合わせ先

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

東京女子医科大学リハビリテーション科

診療部長 若林秀隆

TEL 03-3353-8111 (内線：20131)

FAX 03-5269-7639

URL <https://www.twmu.ac.jp/reha/recruit.html>